

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・6月にかなり回復し、7月に落ち着き始めた矢先、集中豪雨による災害で、消費者マインドが落ち、商店街では、来街客数が非常に減少している。また、新型コロナウイルスの感染者が増加傾向であることから、自粛ムードがまん延し、非常に厳しい状況になってきているが、緊急事態宣言が発令された最悪の4月と比較すると、上向いている。
	◎	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大は続いているものの、4月末の食品フロアのみの時短営業であった時期に比べると、現在は通常営業ができています。
	◎	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・全体の売上は3か月前44%であったが、当月の見通しはほぼ倍になっており、悪い状態ではあるが、上昇している。また、今月は28日まで激しい雨が長引き、その雨がなければ売上が上がっていたと考えている。新型コロナウイルスの感染者は当地でも徐々に増えており、6月より勢いが減っている状況である。衣料品は80%、飲食は60%の売上で、全店似た動きをしている。
	◎	コンビニ（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言後と比較すると売上客数は戻っている。ただ、売上は前年比90%の状況であり、大きなイベントが開催されず人の動きがない。
	◎	家電量販店（店長）	単価の動き	・特別定額給付金の給付は終わっているが、前年より単価が高い傾向が続いている。
	◎	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・特別定額給付金の給付と緊急事態宣言解除で、多くの人が外出しており、一時的に今の状況が良くなってきても、再度の新型コロナウイルス感染拡大に不安が大きい。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・3か月前は緊急事態宣言発令で1か月間休業していたため、収入はゼロであった。しかし、その後、県は県民に、市は市民へそれぞれ5000円と半額の宿泊費助成をしたことによる効果があり、多くの地元客の宿泊で、現在は前年比増となっている。
	◎	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の販売件数が、地域を問わず増加している。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・3か月前は、新型コロナウイルスの影響もあり客足がかなり鈍っていた。現在第2波の兆候もあるが、3か月前と比較すると客数や客単価も増加している状況である。
	○	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス発生から、徐々にだが良くなっている。
	○	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・3月から新型コロナウイルスの影響により売上は減少していたが、緊急事態宣言解除後、来客数は徐々に回復しつつあった。だが、感染者数が日々増えており、今後の売上を心配している。
	○	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・入店客数は、前月より増加しているため、売上も徐々に戻りつつある。ただし、新型コロナウイルスの影響で、高齢者の動きはまだ少ない。
	○	百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・営業再開後、客の利用は徐々に戻りつつあるものの、イベント等による積極的な集客はまだ難しく、新型コロナウイルス発生前に戻ることは非常に難しい。
	○	スーパー（店長）	単価の動き	・新型コロナウイルスの影響により自宅での食事が多くなり、内食や中食用の需要が増加している。すいかの相場も雨の影響で高くなり、前年比115%で好調な推移を見せている。
	○	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・3か月前は休業し、今月初には客数が戻ってきたが、令和2年7月豪雨や新型コロナウイルス感染者増加の影響で、また、客数が減少している。

○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年並みにはいかないものの、3か月前と比較すると、数字的には随分変わってきており、やや良い状況である。5月末から6月に掛けての特別定額給付金の給付が、7月の売上につながり、数字が保たれている。
○	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響は、家電業界にとって追い風となり、加えて、特別定額給付金の給付が買換え需要を押し上げている。
○	家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・自粛解除になり、特別定額給付金の給付もあり、家電製品の購買意欲が上がっている。新型コロナウイルスの影響によるリモートワークや巣籠り需要のパソコン、パソコン関連機器、調理家電、空気清浄機関連等の商材も好調を維持している。
○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量は増加しているものの、安価な中古車商談の比率が多く、新車商談は確実に例年より減っている。
○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売台数が前年まで戻っている。前年比6～7割程度で推移していたが、3か月前に比べるとかなり改善している。当月は、月次決算で黒字が見込める。
○	住関連専門店（従業員）	お客様の様子	・3か月前となると緊急事態宣言があり自粛の中で、その時期に比べると来店客数は回復している。
○	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスは収束しておらず、売上や来店客数共に前年を大きく割っているが、3か月前との比較では、経済の持ち直しを感じる。
○	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・4月の緊急事態宣言期間との比較では良くなっているが、売上は前年比7割ほどで推移している。新型コロナウイルスのクラスター発生で、感染者も日々増加しており、発生以前の数字にどこまで近づけるか先行き不透明である。まだ現状の数字が今後も続く想定して営業していく必要がある。
○	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・一般宴会や婚礼宴会の利用は相変わらず低調であるが、特に週末の昼間のレストランはにぎわいを取り戻している。宿泊も連休を中心に週末の利用が徐々に増えている。
○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストランは少しずつ戻りつつある。県のキャンペーンが始まって宿泊客も順調に増えていたにもかかわらず、東京の感染者数が100人を超えた辺りからキャンセルも増え、稼働が伸び悩む結果になっている。
○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊客も戻り始め、予想より好調に推移していたが、宴会部門が全く戻らず、せっかく新規で受注した案件も新型コロナウイルスの感染拡大により、キャンセルが相次いでいる。しかし、3か月前と比較すると業績は好調である。
○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・Go To トラベルキャンペーンが始まり、国内旅行は若干増えてはいるが、世界各国で感染拡大が続き、海外アウトバウンドの復活時期がみえない。
○	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前に比べて、分譲事業の契約件数はやや良くなっている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・6月下旬からやや客の出足が増えてきたが、また、第2波の予兆があり、事態はなかなか予想しづらい状態である。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染防止関連商品への関心はあるが、主力の衣料品は夏物バーゲンセールシーズンに入っても動きが鈍い。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・4～5月より、良くなるのではないかと期待をしていたが、新型コロナウイルスの影響がどうしても拭き切れず、先行きが不安である。
□	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・景気が回復しかけていたが、なかなか元には戻らない。魚の水揚げが少ないため、思うようには荷がそろわない。その上、入荷量が少なくなると魚価は上がり、利益が薄くなっており、厳しい状態である。

□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・連日の新型コロナウイルス報道で周辺商店街を含め依然人出の回復がない。3密防止対策として、ダイレクトメール抑制と営業時間短縮の対応をしているが、来店客数が大きく落ち込んでいる。特に県外客への警戒もあり、高齢客の減少、目的買いだけの来店で、滞留時間が短縮している。来店客減少でセール商品の動きも今一つである。
□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の懸念の影響で、2月に売上が前年比106%となった後、4～5月をピークとして前年比プラスの状況が続いているが、7月に入ってその勢いも若干落ち着きをみせている。ここ数日の感染第2波の拡大懸念報道等により、まだしばらく売上の好調さは続くが、来店客数が前年比を上回っている状態ではないので、決して景気が良いからということではない。消費者がいくつかの店を回遊しなくなり、1店でまとめ買いをするようになったことが要因と考えている。
□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・梅雨明けが例年になく遅く、本来夏場の主力商品であるアイスクリームや氷等の売行きが悪くなっている。早く梅雨明けし、新型コロナウイルスの影響も少なくなれば、来店客数も伸びてくる。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費マインドとして、より低単価やお買得感に対する反応が見受けられる。セール商品やクーポン利用は好調であるが、依然として来店客数は厳しい状況である。
□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス第2波の動きが心配である。
□	コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・新型コロナウイルスの影響がまだ続き、客数は伸びず3か月前と変わらないが、客単価の午前中と夕方の伸びが、前年と比較すると良くなっている。
□	衣料品専門店（総務担当）	それ以外	・3か月前の4月は、緊急事態宣言が出る直前で、店を休業する直前だったため、比較が難しい。当初想定していた景気回復感、現状では全くない。
□	衣料品専門店（取締役）	それ以外	・3か月前は、自粛要請で休業をしており、売上がゼロの店舗もあったが、4月と比較すると今月の売上は上がっている。やっと動きが出始めたが、現在セール中であるため利幅も少なく、今後の先行きが不透明で懸念している。
□	住関連専門店（経営者）	それ以外	・今月は、店舗での販売や都市部でのキャンペーンでも順調で、売上が回復している。
□	その他専門店 [コーヒー豆]（経営者）	お客様の様子	・お中元シーズンになり、コーヒーの進物等を目的とした客が来店している。新型コロナウイルスの影響で、若干来店客は少ないが、客単価は上がっているため、前年と比較すると横ばい、あるいはやや良くなっている。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、値上げの傾向である。6月より7月が平常に戻りつつある。当地では、雨が降る日数が前年に比べ多く、燃料油の販売量は前年並みで推移している。
□	その他専門店 [ドラッグストア]（企画担当）	販売量の動き	・売上不振の要因として、インバウンド売上の減少や外出自粛による化粧品売上の不振、手洗いや消毒励行のため、衛生環境向上により医薬品販売の減少が挙げられる。
□	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が拡大した3か月前に比べ変化はない。インバウンドの売上がなくなったことが大きく影響している。
□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年と比較すると5月は休業していたために、今月の来店客の状況は、多少来店がある程度で、全く戻っていない。

□	タクシー運転手	来客数の動き	・今月に入り、イベントの復活やGo To トラベルキャンペーン、若者の夜の歓楽街への外出等により、徐々に活気を取り戻そうであったが、再び感染者が増加し、月末も急速に人の流れが低下している。タクシーも半分程度しか稼働していない。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・ようやく昼夜の個人利用が戻り始めていたが、新型コロナウイルスの感染者が増加し、夜の利用が減少している。
□	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染拡大により、単価の高い国外や県外からの来場がない。一方、地元客は、単価は安いですが、県外や国外へ外出ができず、また、長梅雨等天候不順でキャンセルも多いが、ストレス解消に、屋外スポーツであるゴルフをしに来場するため、堅調に推移している。
□	美容室（店長）	来客数の動き	・3か月前よりも、来客数がやや増加しているが、まだ慎重で客足が伸びない。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・宴会の会場貸しでは、新型コロナウイルスの終息でやや良くなると予測していたが、最近の大都市圏の感染状況もあり、キャンセルや見合せが続いている。また、設備投資の見合せ、見直し等で受注環境が非常に厳しい状況は変わらない。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスによるサービスキャンセルの増加で、前年比で減収となっている。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街全体で、状況が悪くなっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・企業も個人も消費が減少しているため、納品業務や小売業の減少がみられる。今までは、企業による納品業務は横ばいの傾向であったが、新型コロナウイルスの影響等で、企業全体が衰退している傾向である。
▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・開店祝いや葬儀用の花が、新型コロナウイルスの影響により激減したため、今までより売上が悪くなっている。
▲	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染が広がりを見せている。感染者も増加していることから、食料品関連の売上はどうか維持できているが、その他のテナントは、消費者の買い控え傾向が強く、回復の兆しがみえない状況である。
▲	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3か月前は休業もあり、比較するとやや良くなっている。しかし、それ以前と比較すると非常に悪い状態で、来客数は前年比30%を超えるマイナスである。百貨店のため、不要不急のものは求めず、お中元を期待していたが、余り変わらず約25%のマイナスである。
▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で減少していた入店客数も8割程度戻りつつあるものの、これまでどおりとはいかない。客の来店頻度も減り、当然買上額も減少し、今後もこの状況が続くと予想される。
▲	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに加え、度重なる豪雨により客の来店頻度が下がっている。
▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・スーパーマーケットの販売量は、新型コロナウイルス発生以前の状態に戻っている。単価や点数は大幅増であるが、来店客数は非常に減少している。ある程度の社会活動の復活と自粛生活での収入減による買い控えが考えられる。
▲	スーパー（統括者）	来客数の動き	・まだまだ巣籠り需要もあり、食品の売行きは良いが、3か月前の新型コロナウイルスの緊急事態宣言後と比較すると、勢いはなく、やや悪くなっている。
▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの発生以来、前年に比べ客単価は上がっているが、客数はかなり大きく落ち込む状態が続いている。客の消費マインドに将来に対する不安があり、その結果、前年を切る売上になっており、非常に厳しい状態である。

▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・市内や県内で新型コロナウイルスが発生すると、来店客に影響が出る。
▲	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除後、特別定額給付金や地域振興券のタイミングも重なり、かなり景気動向は持ち直した感があったが、新型コロナウイルス第2波の報道とともに、マイナス影響が大きくなっている。特に施設内では、映画と旅行代理店の状況は厳しく、回復のめどが立っていない。更なる経済対策、新型コロナウイルスの早期収束に期待したい。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、集客が戻っていない。国からの補助やキャンペーン等で何とかしのいでいるが、第2波の到来に大変危機感を抱いている。
▲	美容室（経営者）	販売量の動き	・徐々に良くなると予想をしていたが、新型コロナウイルスの感染者が増加しているため自粛傾向になっている。美容業界の客の動きは悪くなっており、数字が上がらない。
▲	設計事務所（所長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染が落ち着いた頃に来社していた材料メーカーの営業が、再度の拡大により、企業訪問を中止している。
▲	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・好立地にあるオフィス兼用マンションをしゅん工し、入居者を募集しているが、反応は余り良くない。新型コロナウイルスの影響もあり開業者が少なく、また賃貸事務所移転など、費用がかかる設備投資が避けられている。
×	商店街（代表者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、外出を自粛することにより、衣服等購入する必要もなくなるために、来店数は少なく、購買意欲もそがれ、全てが悪い状況に向かっている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染を警戒し、来店客数が前年の40%まで落ち込んでいる。
×	スーパー（店長）	来客数の動き	・生活環境の変化で売れる物が変化しており、それに連動して客数も増減している。
×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・連日、新型コロナウイルス感染者の増加報道で、人の動きが低調なことに加え、主要客である会社関係者のテレワーク再開等もあり、来店客数が10%程度落ち込んでいる。
×	コンビニ（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で先がみえない。見えているのは、赤字のみである。
×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響かどうかははっきりしないが、来店客数が、以前より明らかに減少している。来店客との会話で、当県の患者数の変化が話題になっている。
×	乗用車販売店（代表）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で、かなり悪くなっている。
×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・市内や県外からの観光客の動きがなく、ましてや海外からは全く来店がないため、売上が回復しない毎日で、先がみえない状態である。
×	居酒屋（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が急激に増加したこともあり、夜に飲食店を利用する人が、減少している。
×	タクシー運転手	それ以外	・自粛解除後、人の流れが戻ってきているが、ここに来て新型コロナウイルス感染者数が、すごい勢いで増加している。国の施策と国民の経済活動の間に、かなりの違いがある。
×	観光名所（従業員）	来客数の動き	・7月は、伝統芸能の公演を再開したが、例年のにぎわいには戻らない。また県内でも新型コロナウイルス感染が流行しており、来県・来街を控える人も多い。
×	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、客がなかなか来店しない。加えて、水害もあり災害がひどい状態で、深刻である。
×	その他サービスの動向を把握できる者 [フィットネスクラブ]（営業）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、過去にない客の減少となっている。

	×	設計事務所（代表）	来客数の動き	・新規の来客数が減っている。
企業 動向 関連  (九州)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・第1四半期は最悪であったが、補助金を活用し第2四半期までしのご予定である。下期はある程度の数字を見込んでいるものの、やや不安である。
	○	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は、前年比減少のままではあるが、4～5月と比較すると徐々に回復している傾向にある。緊急事態宣言が解除され経済が動き出したことが、そのまま貨物の荷動きに反映されている。
	○	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・7月4連休前までは、新型コロナウイルスが落ち着いてきたということで、かなり経済活動も動いており、状況は上向きであった。
	○	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・少量取引から大量取引へ増えている。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・外食部門は依然厳しいが、スーパーマーケット関連の冷凍食品加工メーカー向けや輸出向け商品部門は上向いており、総じてプラスマイナスゼロになっている。ただ、原料となる鶏が多く発生し、商品が在庫となっているので、今後の経営に大きな不安を残しているのが現状である。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、落ち込みが続いている。それに加え、豪雨の被害にあった従業員がおり、生産体制にも影響が出ている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車関係の部品の需要が非常に悪い。国内の自動車販売が落ち込んでいることが大きな原因である。
	□	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・今の時期、景気は良いはずであるが、そこまで忙しい状態ではない。新型コロナウイルスの影響はないと考えていたが、第2四半期になって発注が滞っている。官公庁は、お盆の時期を避け、9月から本格的な発注になると予想され、上半期の80%は、実施されていないと考えられる。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注数や受注単価共に変化がない。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・業種によっては、以前のように回復している業種と回復には程遠い業種があり、飲食店に関する業種への受注量や販売量は、まだまだ回復していない。一方、地方都市での住宅関連では、木材等の受注量が回復している。
	□	通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの状況に、好転の兆しがない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言は解除されたものの、まだまだ人々の動きは鈍く、旅館業や航空業の業績悪化は更に深刻化しており、今年中の業績回復は厳しいと考える企業が非常に多い。後退傾向が一時的に下げ止まっている業種もあるが、取引先全体の業況でも、低水準の状況は変わっていない。
	□	金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響による自粛や移動の制限等により、飲食店やホテルを始めとする多くの業種で、かつてなく景気は悪い。しかし、3か月前との比較では、それ以上に悪化はしていない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・経済活動の再開を受けても、飲食店では大きく落ち込んだ客足の戻りは鈍く、個人客より企業の接待関連の冷え込みがより深刻である。ボーナスや特別定額給付金の効果で大型家電に動きが出ている。
	□	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・久しぶりの連絡会議では、状況に動きがないようである。当分は、動きが取れないという意見が多い。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況を聞いても、特に変化がないという回答が多い。

	□	その他サービス業 [コンサルタント] (代表取締役)	取引先の様子	・市町村が当初予算化していた福祉や計画策定、及び設計等の委託業務の予算を新型コロナウイルスの感染防止対策に振り分けており、発注量が減少し、受注する機会を失っている。また、策定委員会やヒアリング等の調査の見通しが立たないため、予算の発注が遅れている。
	▲	家具製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・4～6月までの売上は、新型コロナウイルス発生以前の受注残が多少あったため、前年比は若干のマイナスで済んだが、7月以降の受注予定は、前年の70%程度に落ち込んでいる。
	▲	金属製品製造業 (事業統括)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス第2波の影響により、予定していた客の設備投資が様子見になっている。
	▲	電気機械器具製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスが、大きく影響している。
	▲	金融業 (営業担当)	取引先の様子	・中小事業者や個人事業主は、セーフティネットや給付金等で資金的には落ち着いているが、肝心の営業面で売上が、春先から今月に掛けて、特に飲食業や旅行業、旅館業中心に売上が落ちており、売上が50%以下の状態が続いている。
	▲	広告代理店 (役員)	受注量や販売量の動き	・広告や販促プロモーション費の一部は戻ってきているが、再度緊縮モードになっている。
	▲	その他サービス業 [物品リース] (職員)	取引先の様子	・取引先の設備投資削減や投資の延伸が目立つ。新規契約の量も減少している。
	×	農林水産業 (従業者)	それ以外	・農業界は基盤ということもあり、嗜好商材以外は順調に推移している。しかし、景気全体が落ち込んでいることから、今後の流れが読めない。
	×	繊維工業 (営業担当)	それ以外	・老舗メーカーや工場が倒産や閉鎖をしている。現在、当社では服ではなく、マスクや防護服を縫製している状況である。
	×	窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・7月も6月同様に売上が前年度の半分になり、なかなか上向かない。Webや受注関係が僅かながら6月よりも良くなっている状態である。8～9月も新型コロナウイルスの影響で、地場の商社の受注も少なく、前年の半分いけば良い方ではないかと心配をしている。
	×	一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、受注減少や引き合い案件が中止になっている。
	×	電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの受注が減少している。
	×	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響以外に、集中豪雨による災害で工場がストップする等の要因で、生産がかなり落ちている状況である。
	×	金融業 (従業員)	取引先の様子	・百貨店やスーパーマーケット等の売上は、やや持ち直しているが、一時期の減少傾向をたどっていた新型コロナウイルスの感染者数が、このところ再び増加に転じたことから経済活動や市民生活の不安感は解消されていない。
	×	新聞社 [広告] (担当者)	受注量や販売量の動き	・期待していたGo To トラベルキャンペーンも新型コロナウイルス第2波の影響で、好材料となっていない。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・宴会等の動きはないが、新しい施設もやっとオープンし、婚礼司会の発注もようやく受け、徐々に動きが出始めている。
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人は若干戻ってはいるものの、テレワーク及び生産性の改善で補っている。
	○	求人情報誌製作会社 (編集者)	周辺企業の様子	・企業の採用意欲が徐々に高まっているが、新型コロナウイルスの第2波、第3波を警戒して積極的な求人までには至っていない。
	○	新聞社 [求人広告] (社員)	周辺企業の様子	・新聞広告の量を見ていると、4～5月が底で、6～7月は上向いてはいるが、前年と比較すると、かなりの落ち込みである。景気が良くなっているとはいえない。

○	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・緊急事態宣言中は、採用活動がストップしていたため、かなり景気が悪い状況であったが、解除後2か月がたって、ようやく動きが出ている。新型コロナウイルス発生以前には程遠い状況で、前年までは採用難で合否ライン上で迷ったら合格であったが、今年は迷ったら採用しない状況に変化している。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスによる影響は、4～5月が一番厳しかった。その後、徐々に経済も回り出し、景気も上向く傾向にはあったが、豪雨や新型コロナウイルス第2波ともいえる状況等もあり、また、逆戻りしている。
▲	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・7月上旬に新型コロナウイルスのクラスターが発生し、それ以降、求人との問合せが減っている。オンラインで派遣登録をしているが、それでも登録希望が減少している。求職者の動きも停滞しており、企業からの注文も停滞している。
▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業からの求人の動きが鈍く、受注数が激減しており、求職者も状況を探っている状態である。そのため、人選に苦戦している。
▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・一般企業の求人は減少傾向であるが、官公庁関係の給付金支給に関する事務の依頼が増えている。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・緊急事態宣言解除以降、街に人出があり、新聞の折込広告等も増えている。一方で、新型コロナウイルス感染者も増え始め、雇用調整助成金等で従業員の雇用を維持している企業が多いが、秋以降は売上が伸びず、減給や解雇等も徐々に増加する。
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・全業種で、求人減少傾向が続いており、来春卒業予定の高校生向け求人の受理件数も前年比で3割程度落ち込んでいる。特に、販売やサービスの職種での減少幅が大きい。
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者が減少しているが、それ以上に新規求人数も、前年比20%以上減少し、有効求人倍率も低下している。産業別でも宿泊、飲食サービス業は、前年比70%以上の減少で、製造業や運輸業も落ち込んでいる。
×	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人数の減少が続いており、人員整理や規模縮小の動きがある。
×	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・電話調査を行ったところ、7割程度の企業が採用活動を継続している状況が見受けられるが、新型コロナウイルスの影響により、2021年卒業生の採用見送りや内々定の取消し事案が発生している。